

原産強化拡充の事業計画大綱にのっとり、原子力技術情報活動の推進をはかるため、昭和42年度の電子計算機室の事業計画を次の通りとする。

(I) 原子力コードの共同開発整備

一昨年度にひきつづいて、原子力コード開発懇談会は原研の原子力コード委員会および原子力学会の原子力コード特別専門委員会と密接な協力を保ち、さらには各方面の原子力コード専門家の協力を得て、原子力コードの共同開発整備活動を推進するが、とくに海外より入手した原子力コードの修正、整備に（各種大型電子計算機が導入された）重きを置き、我が国の原子力界の計算体制の充実に寄与する。

このため、具体的には、原産電子計算機室を、欧州原子力機関（ENEA）の原子力コードライブラリーにメンバーとして登録し、同ライブラリーより資料を入手する道を開くとともに、

＊AEC、英AEA、仏CEA、加AECLの関係施設と連絡をとり、

（核燃料サイクル立案用コード）

発電炉開発計画立案用コードなどの総合的な原子力コード、